

曹 そう

全 ぜん

碑 ひ

185年  
(漢時代)



## 古典碑帖の窓①

木 雞

木 雞 室

伊 藤 滋



後漢時代に隸書は隆盛を極めた。前漢時代の隸書は、流麗な波磔を具えたものは少ない。後漢時代には、様々な趣の波磔を有する碑が数多く残されてゐる。横画や左右の払いには波のようないい。一般的な評価は、秀麗にして典雅であるとされる。またいさか女性的で艶もつ隸書を「八分」、「八分隸」、「八分体」

と呼んでいる。この「八分体」は現在でもいろいろな場面で使用されている。八分体の代表的な古典碑帖として、曹全碑、禮器碑、史晨碑、乙瑛碑、孔宙碑などが有名である。曹全碑の書法の一般的な評価は、秀麗にして典雅であるとされる。またいさか女性的で艶

麗に過ぎ、素朴雄健の趣に乏しいと評する人もいる。しかし、碑文の文字を子細に見ると左に示した「鳳」「是」「哉」の文字などは、実に大胆な文字構成を示している。「之」の字なども多く使用されているがそれぞれ個性的である。こうした躍動感のある結構は、

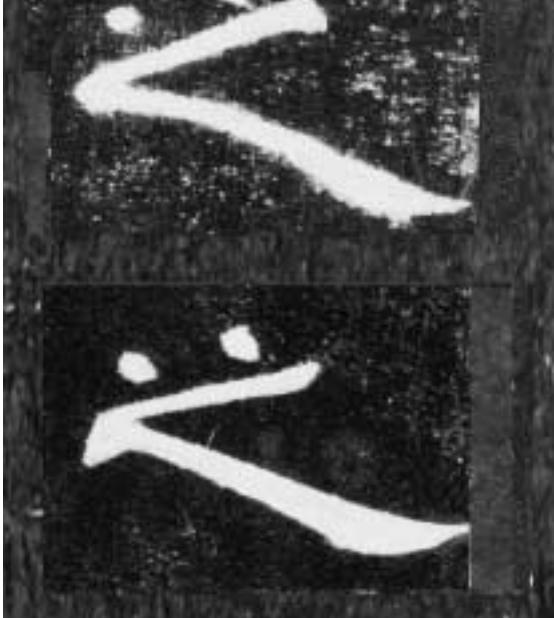
女性的という表現は相応しくないよう感じ。他の碑とは異なり、曹全碑の碑面の保存が実によい。こうした面が女性的な表現に結びついたのではないかろうか。碑陰の文字は碑陽に比べて小さく、書風もやや異なる。



是



哉



# 書道藝術院 平成の書(2009)



「うし年に=書く」第62回書道藝術院展2009

飯高和子書

175×(88×2) 176cm



飯  
高  
和  
子  
財團法人書道藝術院  
理事

廻る丑どし  
やっぽり牛はのろのろと歩く 牛は大地をふみしめて歩く  
ことしあうしどし 私の年だ

書は私の自分史 丁丑生れ私のバイブル的存在の光太郎詩  
「牛」105行を書き進む。一曲屏風仕様で輪廻シリーズ・祈り  
と決意を「うし年に=書く」。廻り来る癸丑には蘭亭序を  
の落款をば五臓六腑に記し、日中國交回復記念賞副賞峰雲先  
生刻朱文角印「和」を押印して62回藝術院展出品作と成る。

書は心やれば出来る継続は力なりと誓うこの朝・・ひとめ  
ぐりして丁丑の春生徒と共に=姉高最終授業のレジメを書に  
して50回展峰雲賞の感激と恩師の姿が蘇える。虎落笛OKAE  
RIの聲極まりて・母の口唇読む夜明け 妹達と舌癌の母の命  
に添う刻々を書き続けさせてもらえた七年余。廻り会いの嬉  
しさ美しく=自戒の言葉を書に出来る生き様をこそが今。

思えば昭和27年、高校芸能科書道選択が書と種谷先生との  
邂逅、以来師と仰ぎ57年。競書大会四回展文部五回展臨書20  
種と日記代りの詩文で出品、全日本学校書道連盟審査は詩文  
書総理大臣賞が書と教育の一一本道。書塾経験のない私が先生  
の新しい書教育コーチングの動くサンプル。師第一如は私の  
誇り学校教育で書は何を抱えるか。文部省指導要領・指導資  
料作成協力現場代表漢字仮名交じり書の認知と今期の必修は、  
戦後新しい書運動の先達香川先生等の理想実現への努力。学  
生展担当理事で私は何が抱えたか。本院8回展初出品特選院  
賞大賞と認め育てて頂き16回展5科新調和体部門で先達加藤・  
千代倉・長井・満田先生と真剣勝負の審査体験等戦後民主主義  
思想解放芸術運動最先端で育てられて54年、昭和の書の申  
し子私の今は重い。今を生きる 私を書にする 思いを言葉  
に言葉を文字にその文字をば書に出来る研究から書の源流に  
棹さし21世紀心を耕す書は世界平和の言葉です。書をやるな  
ら中国へ1964年夢実現の感動と戴いた沢山のご恩が私の原点。  
師と山東磨崖漢中開放日中交流 双石先生227顆押印県美収蔵  
等得難い墨縁。爺婆が伝える日本の心書の凄さ今こそ夢2009。

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 平成21年度

### 書道芸術院の事業計画

#### 一 公益法人と不況対策一

3月15日の評議員会、並びに理事会において、平成21年度の書道芸術院の事業計画、収支予算などが決定したので報告する。

#### 〈事業計画〉

##### 1、書道芸術院展（第63回展）

・会期 平成22年2月6日～11日

・会場 上野 東京都美術館

・合同鑑賞会 2月11日13時～ 都美

・表彰式 帝国ホテル 16時～ 神奈川県横浜市

・祝賀会 " 18時～

・出品サイズ 昨年と同じ

・出品料 一般公募 7000円 同 30歳未満3000円

5、書道芸術院講習会（単位認定）  
会期 8月22日～23日  
会場 千葉県成田市

・規定期間 昨年通り

・半紙額以内

・出品料 15000円

##### 4、書初誌上展

・規定期間 昨年通り

・半紙額以内

・出品料 15000円

##### E 指導者作品の展示

（規定昨年通り）

B 作品の出品 昨年通り  
C 締切 6月8日（月）  
D 審査 6月11日～13日  
E 指導者作品の展示

3、全国学生書道展  
会期 平成21年7月28日～8月2日  
会場 東京都美術館

A 幼稚園・小・中・高・大学生

坂本素雪 下谷洋子 稲垣小燕 加藤暁渓

千葉耕風 千葉蒼玄 小浜大明 小林琴水

名越蒼竹 浜田堂光 齋藤雨城 最首翠風

三森慧香（新）山田梓江 牧 泰壽

同 審査 8月21日  
作品寸法毎日公募サイズ  
鑑別料 5000円  
(2点まで)  
同 补充 新理事 滝 春芳  
(新理事は退任理事の残任期間、  
平成21・4・1～22・3・31迄)

7、人事  
(1)定年による退任理事 香川倫子  
同 补充 新理事 滝 春芳  
(新理事は退任理事の残任期間、  
平成21・4・1～22・3・31迄)

石井明子 稲垣小燕 加藤暁渓  
金井如水（新）後藤大峰 小浜大明  
小林琴水 最首翠風 齋藤雨城  
坂本素雪 下谷洋子 稲垣小燕 加藤暁渓  
千葉耕風 千葉蒼玄 小浜大明 小林琴水  
名越蒼竹 浜田堂光 齋藤雨城 最首翠風  
三森慧香（新）山田梓江 牧 泰壽

##### （新）は新任、他は再任

##### 8、人事

(1)定年による理事の退任とそれに伴う人事異動ほか

##### ・名譽顧問

香川倫子（新）小伏竹村

浜田一堂 村野大仙 柚口青萍

・常任顧問

水谷鶴鳴 烏山岳風 山下皓映

・参事

上柳佳規 尾崎栄職 田守光昭

外所思水（新）  
(新)は新任、他は再任

##### ◇院の特徴と現状

##### 1、院の構成

○書道芸術院は総合団体である。

日本の北海道から九州まで、13の総局と支局で構成し、漢字、かな、現

代詩文書、篆刻・刻字、前衛書の5部に所属し、研究、発表活動を続けている。

○総局支局の共通理解と独自性  
(1)夏の講習会の継続  
各部の活動を実技を通して理解する。各総局支局が交替で会場を主管し、それぞれの総局支局の活性化、人材の養成にも効果をあげている。

尚、この講習を受講しなければ、審査会員に登用しないシステムとして総合団体の基礎となる行事と位置づけている。

##### (2)院の歴史を理解する。

戦後書道史に燐然と輝いた「前衛の芸術院」の初期から、受け継いだ二代目。そして今の三代目に世代交替の時である。革新の尖兵でありた

い。

##### (3)機関誌「書道芸術」と広報

「書道芸術」は基礎的な古典の学書から、前衛書の試行作品まで幅が広い。又、機関誌としての情報伝達の役割を果たしている。

##### (4)本展と秋季展

勿論、第63回書道芸術院展（東京都美術）や秋季展（東京セントラル）は院の中心行事で「評論家の目」など導入して本年度も創作意欲の高揚につとめている。

##### 2、問題点として、会員の漸減傾向が止まらない。魅力のある現代の書を模索していく必要があるう。

##### B 財團役員ほか

C 審査会員選抜作家

D 審査会員候補（公募）

公募締切 8月10日

講師 石川忠久先生

6、講演会  
とき 11月23日（院の創立記念日）

会期 平成21年10月6日～11日

会場 東京セントラル美術館

出品者 A 名誉顧問、常任顧問

受講 本院の役員8先生

講師 南関東総局

主催 南関東総局

7、企画

8、会員登録

9、会員登録

# 漢字(一)

小浜大明

姿勢でハンドルを握っていることと思  
います。

公道を走るだけに飽足らず、高度な  
技術を必要とするレース等に関心をも  
つ人も現れます。

現代の書と言われる一字書について  
私の考えを書かせていただきます。  
「温故知新」という言葉があります  
が、現代書を書く為には、古典から、  
古い法や古い味等を学ぶことが大切か  
と考えます。そこから正しい運筆法を  
身につけ、次のステップに進みます。



180×60cm

# かな(一)

前田まさ美

日まで勉強してきたことを整理出来  
よい機会をいただけたと思っています。  
書泉会の社中展では、毎回テーマが  
出されます。臨書や倣書に関する課題  
が多いのですが、香紙切はこのテー  
マの始めにとり組んだ古筆で、香紙切の  
細くしなやかでどこまでも流れる線、  
転折の鋭さ、モダンな造形に憧れ倣書  
に挑みました。

師走に入ったある日、この  
コーナーの原稿依頼が届きました。  
なぜ私に!驚きと、戸惑い、真白な頭の中。

私はかな書道に導いてくださ  
ったのは、高校に入り、授業・部活とお世話になつた下

谷東雲先生です。平成8年か  
ら下谷洋子先生にご指導いた  
だいてます。

今まで振り返れば、牛歩  
以外何者でもない私です。

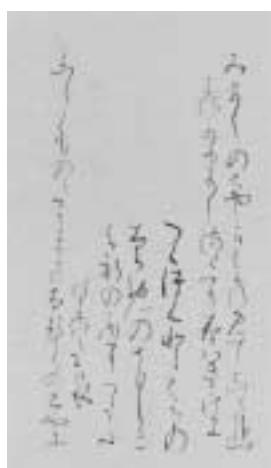
行することは、どれ程無謀なことは  
誰しもわかるでしょう。教習所で基本  
を学ぶ必要があるのです。しかし、教  
習所で学んだ通りに公道を運転してい  
る人は少ないのでしょう。自分に合った

筆操る為には基本をマスターする

ところから始まります。車の運転にた  
とえるなら、現代の車は、ギヤーを入  
れ、ハンドルを握れば誰でも動かすこ  
とができます。が、いきなり公道を走  
行することは、どれ程無謀なことは  
誰しもわかるでしょう。教習所で基本

を学ぶ必要があるのです。そこで、教  
習所で学んだ通りに公道を運転してい  
る人がいるのです。そこが現  
代書の出発点になるものと考  
えます。

新しい書、新しい形を追い  
求める気持ちは現代書を表現  
する為には必要ですが、その  
前に、古人の書を深く学ぶこ  
とが大切だと思います。古典  
学習をくり返す中で、古人の  
形に捉われない新感覚が、自  
然に芽生えるものと考えます。



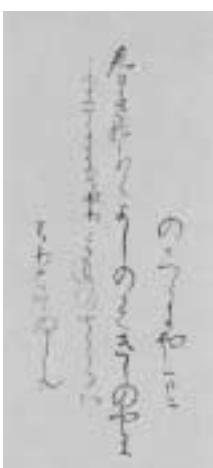
前田まさ美書

帖に仕立てた1ページより  
私が子です。

未完成な作品です  
が、一冊の帖になつ  
て出来上がつたのを  
見ると、いとおしい

③集字をし、連綿を古筆より探す。  
長い時間がかかり作品が出来上るの  
ですが、古筆の雰囲気程度は出せても、  
流れ・リズム・墨の変化等、みな反省

①構成は臨書と同形、  
②歌は新古今和歌集より選択、  
点ばかりです。



小浜大明書

「山色健」

坂本素雪



峰雲賞

この度の第62回書道芸術院展では、幸運にも峰雲賞を受賞し身を引き締めているところである。作品は、野見山朱鳥の句で、「林檎園雪は洩れ日のごとく降る」：深々とした雪に埋まって、葉を落としたリンゴの木が、春を待つリンゴ園の哀愁の光景が目に浮かんだ。真っ白な紙面を雪に見立て、リンゴ園の風景は構成で、雪の柔らかさは線質で表現した。詩歌や俳句は公表した時点で作者の手元から離れるものと考える。故に、受け止める人により様々である。今回の野見山朱鳥の句は、私なりに感じた美的価値を求めた創造表現である。2月10日の作品鑑賞会の折り、恩地春洋理事長が「書は芸術であるか否か」の話をされた。書は伝達の手段ではなく、書芸術として後世に残していきたいものである。



現代詩文書部  
坂本素雪

### 「峰雲賞受賞にあたって」



佐々木 浩子

書道芸術院大賞



前衛書部  
佐々木 浩子

### 「大賞をいただいて」

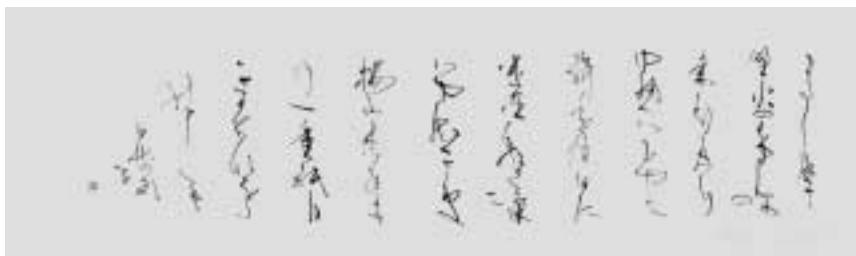
この度は、伝統ある書道芸術院展におきまして、大賞という身に余る賞を

いたぎ、心より御礼申し上げます。  
これも偏に、書道芸術院理事長・恩地春洋先生はじめ並入る先生方のお陰と深く感謝いたしております。  
前衛書を追及するようになって30年。紙に向かったら「静かに筆を入れ、終筆はさらに静かに、そっと、紙から筆を抜く。ただし、点折は、力強くくつきりと。」今は亡き、深松海月先生の教えを常に心掛け筆を持っております。  
線をより引き締め、生き生きとした作品を目指して、古典を紐解き、また、この時代に「書を学ぶ」という事ができることに感謝して、さらに精進したい所存でございます。今後ともよろしく御指導お願いいたします。

# 第62回書道芸術院展

〈1〉

書道芸術院準大賞



かな部 川口 美知江



前衛書部 鈴木蕙月



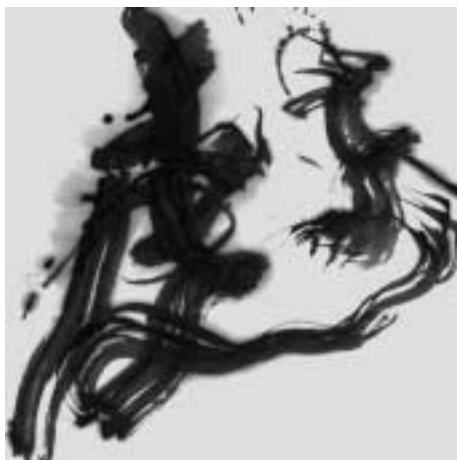
漢字部 横井正江



現代詩文書部 浅利祥紫



漢字部 小林青峰



白雪紅梅賞



現代詩文書部 三宅佳峰



漢字部 益子翠蘭



現代詩文書部 熊谷青山



漢字部 安藤華祥



現代詩文書部 伊藤翠心

白雪紅梅賞

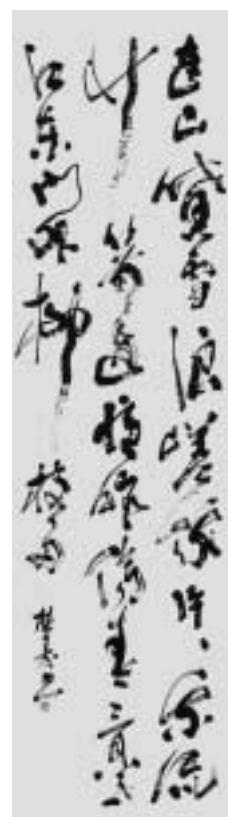


篆刻・刻字部 丸山筑峰

漢字部 筒井寿子



漢字部 小林椿寿



かな部 庄司紅郎



## 無鑑査に対する賞

### 院賞

#### 漢字部

奥山湖仙 群島春翠 田原洋子  
平野加祐子 三谷信子 山脇山鳥

#### かな部

治田芳江 合田遊春 小竹正高  
木村順峰 栗原由紀 仁木光堂

#### 現代詩文書部

吐生真由美 三浦明美

#### 篆刻・刻字部

佐藤花梢

#### 前衛書部

荒川空華 石黒和子 龜井 健

#### 毎日新聞社賞

・漢字部

宇田川春華

#### 現代詩文書部

生方由美子

#### 篆刻・刻字部

稻村茂吉

#### 前衛書部

原田玉風

#### 特選

青木蘭雪

秋野朝子 朝倉希代子  
旭 筝陽 安達恵月  
石田明城 伊東晃山 芦立菜郊  
猪原美風

今泉潮汀 岩谷梢月 上木京子  
上西幸華 大窪翠村 春日小夜子  
加瀬良子 加藤翠陽 金澤峰雪  
金谷洋子 合田遊春 小竹正高

坂田句子 佐野靜城 佐野文子  
澤田征乃 清水岳城 高木蒼信

竹中泉惠 田中喜美枝 田中翠恵  
田中美泉 機尾等興 豊嶋順水

中井翠泉 馬場咲子 濱田翠月  
正木美奈子 松下綠葉 松山清風

真鍋萌翠 村井聰子 山下律子  
渡辺信溪 山中健司 六波羅箒玉

武藤房枝 新谷風泉 伊藤良佑 離井 弘  
五代久美子 佐々木春芳 末棟直子  
高橋みね子 田中耶衣 宮澤美根子

赤城澄江 安倍四皓 池田四妙  
石崎甘雨 内海恵利 岡本要翠  
奥村麻美 尾田素紅 乙倉翠芳  
小野寺久美 梶崎瑞樹 龜谷恭子  
川田てい子 木村久美子 木村祐子  
須藤秋雨 高橋桂江 田中桜苑  
対馬恵秋 富田瑠翠 長井隆仙  
中村悠雲 樋口恵泉 星野美佐枝  
矢越郁也 山内松吾 吉田翠桐

・漢字部

山田碧翠 渡辺信溪  
山中健司 六波羅箒玉

・かな部

新谷風泉 伊藤良佑 離井 弘  
五代久美子 佐々木春芳 末棟直子  
高橋みね子 田中耶衣 宮澤美根子

武藤房枝 新谷風泉 伊藤良佑 離井 弘  
五代久美子 佐々木春芳 末棟直子  
高橋みね子 田中耶衣 宮澤美根子

・現代詩文書部

赤城澄江 安倍四皓 池田四妙  
石崎甘雨 内海恵利 岡本要翠  
奥村麻美 尾田素紅 乙倉翠芳  
小野寺久美 梶崎瑞樹 龜谷恭子  
川田てい子 木村久美子 木村祐子  
須藤秋雨 高橋桂江 田中桜苑  
対馬恵秋 富田瑠翠 長井隆仙  
中村悠雲 樋口恵泉 星野美佐枝  
矢越郁也 山内松吾 吉田翠桐

・漢字部

岩崎陽光 内海恵利 岡本要翠  
小松幽光 齋藤桂珠 坂巻麗苑  
佐々木一峰 佐藤祥扇 鈴木千恵子

・現代詩文書部

川田てい子 木村久美子 木村祐子  
須藤秋雨 高橋桂江 田中桜苑  
対馬恵秋 富田瑠翠 長井隆仙  
中村悠雲 樋口恵泉 星野美佐枝  
矢越郁也 山内松吾 吉田翠桐

#### 準特選

#### 漢字部

因幡彩紅 大坂靜枝 太田華美  
大槻柏秀 小川雅子 勝 凰晶

#### かな部

熊野谷涼 小松由琴 西條祥葉  
下江俱泉 異 恵箏 鶴田恵子  
富澤江玲 永井明美 森 佳鶴  
山下船屋 行本梨紗 和久井小菊

#### 現代詩文書部

新井美知枝 佐藤京美 清水美鈴  
林田莉香

#### 漢字部

大原華風 小野寺悦子 小野原麻美  
小原静乃 齋藤恵泉 清水瑠佳

#### 篆刻・刻字部

庄司玉華 中村涼苑 根本なごみ  
野崎昌子 初盛彩耶 蛭田禮子  
村谷寛子 目良聰衣 毛利白陽

#### 篆刻・刻字部

市瀬 洋 坂田聰石

#### 前衛書部

磯沼良子 川向隆浩 後藤 恭

鈴木賢一郎 鈴木幸風

・前衛書部

網中春華 荒木孫功 伊藤有津  
大村直子 小野寺美智子 尾山美和子  
佐藤紅茜 佐藤竹星 齋藤妙邨  
須藤彰仁 高島洸蓮 片山敬子  
高橋清子 工藤浩範 齋藤妙邨  
中野真瑛 林美奈子 藤倉澄華  
三浦律子 宮城涼萩 橫山晁光

竹田知美 田島はづき 星野裕子 三塚清蓮  
千葉千鶴

◀一般・無鑑査》各部 審査風景



## 「大好きになった書を書くこと」

楠 本 えい子

(現代詩文書部・審査会員)

今から丁度20年前になります。千葉県立美術館で、友の会書道講座があるで受講しましょと誘っていただき二つ返事で申込みました。講師は飯高和子先生です。文字の成り立ちから見たこともない拓本とやら、写経・仮名・大字書・篆刻・名品鑑賞etc。書くだけではありません日本と中国の歴史や文學からデザインまでたくさん体験させていただきました。小画仙紙に「花」と墨で思い切り書きました。初体験でした。これを軸装にしてあげましたと表具屋さんに依頼してくださいました。とにかく初めての作品で私の宝物として故郷の実家に掛けてもらっています。私は、幼少期千鶴八萬石という田園風景が目前に広がるという環境で過ごしました。習い事なる機会は何もなかったのでカルチャーショックでした。しかし、私の劣等感はこの書道で人生変わったように思います。50の手習です。お陰で種谷扇舟先生の日本童謡の書展第一回展から出品させていたことが出来ました。幸運です。

「絵も入れてよいのですよ」と飯高先生は私の絵心をくすぐって。童謡は心のふるさと一書こう一歌おう一心のうたをが先生の授業でした。私は幼年のの足で歩きたいです。多くの心を学び

気持ちを大事に童心にもり故郷に身を置き、テーマを干支にお正月の歌やその年の歌を書きました。それは愉しくて一日中熱中できました。夢中でした。本当に時間をお忘れ位にです。何とまあ思いもよらない大賞でした。次も次もと「連続10回に挑戦するぞ」と、とてもない願いをもってしまいました。

我が師と我が同志の合言葉であります「書は心」やれば出来る。継続は力なり」を掲げて参りました。継続の原点は、体力と気力なりと文の道と武の道とを同時期に志す決意しました。私にかけて基礎体力作りはマラソンでした。コチなしの自主トレーニングで挫折をくりかえしながら、「練習なくして結果なし」と少しづつ距離を伸ばし4年間かかるべく、やっとフルマラソン大会にエントリーし、タイム内に完走出来ました。忘れた時は涙が止りませんでした。忘れられない感動です。今後も体力の続く限り頑張りたい。この気力を持って書の道を邁進したいです。マラソンにはゴールがありますが、書の道のりは涯しまなく続きます。今スタートしたばかりといつたところでしょうか。今年から四国霊場第一番から八十八ヶ所自分で歩きたいです。多くの心を学び

たマラソン出場同様に体調をととのえ題材を尋ね準備します。10年自ついに念願叶いました。嬉しかったです。感謝いっぱいになりました。先生はその時の市原での童謡を歌う会のイベントの記念作品を私にくださいました。宝物です。「童謡の書イコレ楠本作品ワールドなのよ」と先生に評価していただきました事が私の心の支えとなり誇りです。その後、書道芸術院展に好きな童謡の心を書にしてみたら」との指針をいただきました。春が来た鳥がさえずる如くリラックスして楽しく仕上げました。作品にも春が・・二度目の白雪紅梅賞の受賞でした。実際に喜びよりも驚きの気持ちの方が強かったです。先生は自己検証しましたようよといつもおっしゃっておられます。が検証及ばないまま現地に立っています。

面を書に表現できたら幸です。そして私の人生の一つとして粘り強く積み重ねて参ります。童謡の書で私は育てていただきました。師恩に報いるべく、すばらしいあたたかい社中の皆さんと楽しみも苦しみも支え分ち感謝しつつ精進いたします。



童謡、唱歌を書に書いて送ろう童謡の  
葉書、2007年のいのとしに  
飯高和子先生による参考作品です。



第59回書道芸術院展 白雪紅梅賞受賞作

楠本えい子書

## 「生きた時間」

安 田 啓 子

(かな部・審査会員)

小学校にほど近い町の市民センターに集つて来る子供達から、どうして書道を始めたの、年令はとよく尋ねられる。その都度私はその場を凌いでいたが、その問い合わせ自分にも問いたいところである。

10年前のある日、突然、報徳訓の屏風を見せて欲しいと老人が尋ねて来た。その事で今まで忘れかけていた幼い頃の事が一気に思い出された。一時代前の我家の親達の生活の場では、当時の筆字は日々の暮らしの記録伝達の道具であった。屏風というのは報徳社時代のもので、父母根元在天地今命とはじめ六曲屏風で子供の頃はよく誰れも居ない部屋で眺めていると何となく心静まる思いであった。今は静かに物置に眠つてゐる思い出の一つである。筆字でのもう一つの思い出は、新学年になると、新しい本のカバーに書いてもらう科目ごとの筆字である。そんな事からか筆字というのは特別のものとも思わず、学校から社会人となり様々な



水茎書道会社中展 風景

師との出会いを重ねたがつい25年程前までは何とはなしに過ごしてしまっていた。

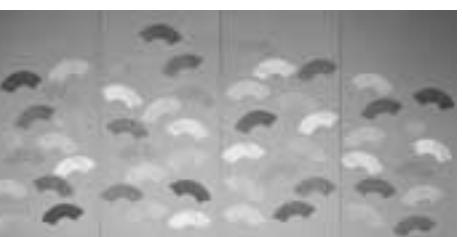
本当の私の書道はその後から始った。当時、同じ町にお住いの加藤紅樹先生との出会いはごく自然なものであった。

その後、加藤先生を通じ、東京の永井幸子先生・高橋松延先生に「かな」をお習いすることになるのであるが。加藤紅樹先生主宰の福島の水茎会は総会も23回を重ね比較的「かな」の少ない

永井先生がお亡くなりになられる以前4回程福島に足を運んでいたいた事も私達にとっては最大の幸せの一つであった。東北の「かな」を広めようとの熱意を加藤紅樹先生に託されたかったのであろうか。「大字がな」のしばらくしい世界にときめいたのも永井先生によつてであった。毎日展も当初は淡墨で8尺ものであり、永井先生の、滲みと渴筆の美しさ洒脱な字形に完全に魅了されて仕舞つた。しかし8尺の紙に長峰で文字を埋めるのは至難の技であった。

その永井先生も早くお亡くなりになり、唯お亡くなられ前の前、加藤先生の墨で8尺ものである。そこから永井先生の発案で、皆から永井先生のお手本を集め作品集を仕上げた。先生が亡くなられ

東北の中では他に類を見ない程自由であり、且つ少しもゆるぎなく良く綴つてゐる会であると自負している。これは加藤紅樹先生のお人柄によるものであるが、先生はまた、中央に足を運ばれ、新しいもの、美しいものを取り入れる事に全力を注いで来られた。それがまたかも使命の様にすら見受けられた。また、全ての面で常に意欲的で素敵な発想と、企画立案それに実行力は適切で完璧であった。過去6回の社中展に先生を中心として味つた終了するまでの緊張感と楽しさは生涯忘れ得ぬものである。



源氏物語一帖一首屏風  
水茎書道会社中展合同作品

永井先生の亡き後は、高橋松延先生により文字の美しい線を出す為の技術など事細かく伝授いただく事となつた。筆の傾斜加減、スピード感など納得の行くまで惜しみなく教えていただいた。その折々文字が魔法の様に紙上に現れる時は目眩めく思いであった。

しかし、私には到底その域に及ぶべくもなく、そこから自分の個性を發揮すべく悪戦苦闘を続けている。

加藤紅樹先生、永井幸子先生、高橋松延先生、この個性あふれたお三方の師より授つた勝れた書芸は、後輩に伝えるべき使命があるのではと、ひしひし考えさせらせるこの頃である。またこの事がこれから私が歩む「生きた時間」としての道なのかも知れません。

用紙 半紙普通判  
＝注＝

〈解説〉最澄（伝教大師）767～822年。自筆になる唯一の尺牘（漢文の書状）である。日本天台宗の開祖としての最澄の弟子・泰範にあてたもの。しかし、この書状が空海の目に触れることを予想して書いた

ことは歴然であり、実質は空海宛である。時に47歳であった。  
29.2 cm × 55.2 cm。  
(編集部)

奈良国立博物館蔵（国宝）

漢字研究部競書作品は、署名、もしくは左の法帖の中から○○臨何文字臨書してもよい。

（掲載部分以外は不可）

※落款を必ず入れる  
（押印のみ也可）

久隔清音馳走至極傳承  
安和且慰下情  
大阿闍梨所示五八詩序中  
一百廿禮仏并方円図并註義

久隔清音馳恋無極。伝承／安和、且慰／下情。／大阿闍梨所示五八詩序中、有／／一百廿禮仏并方円図并註義

## かな研究部

筋切（伝・藤原佐理）  
すじきれ（ふじわらのすけまね）

※左記の掲載歌一首以上を書く  
(全幅も可)

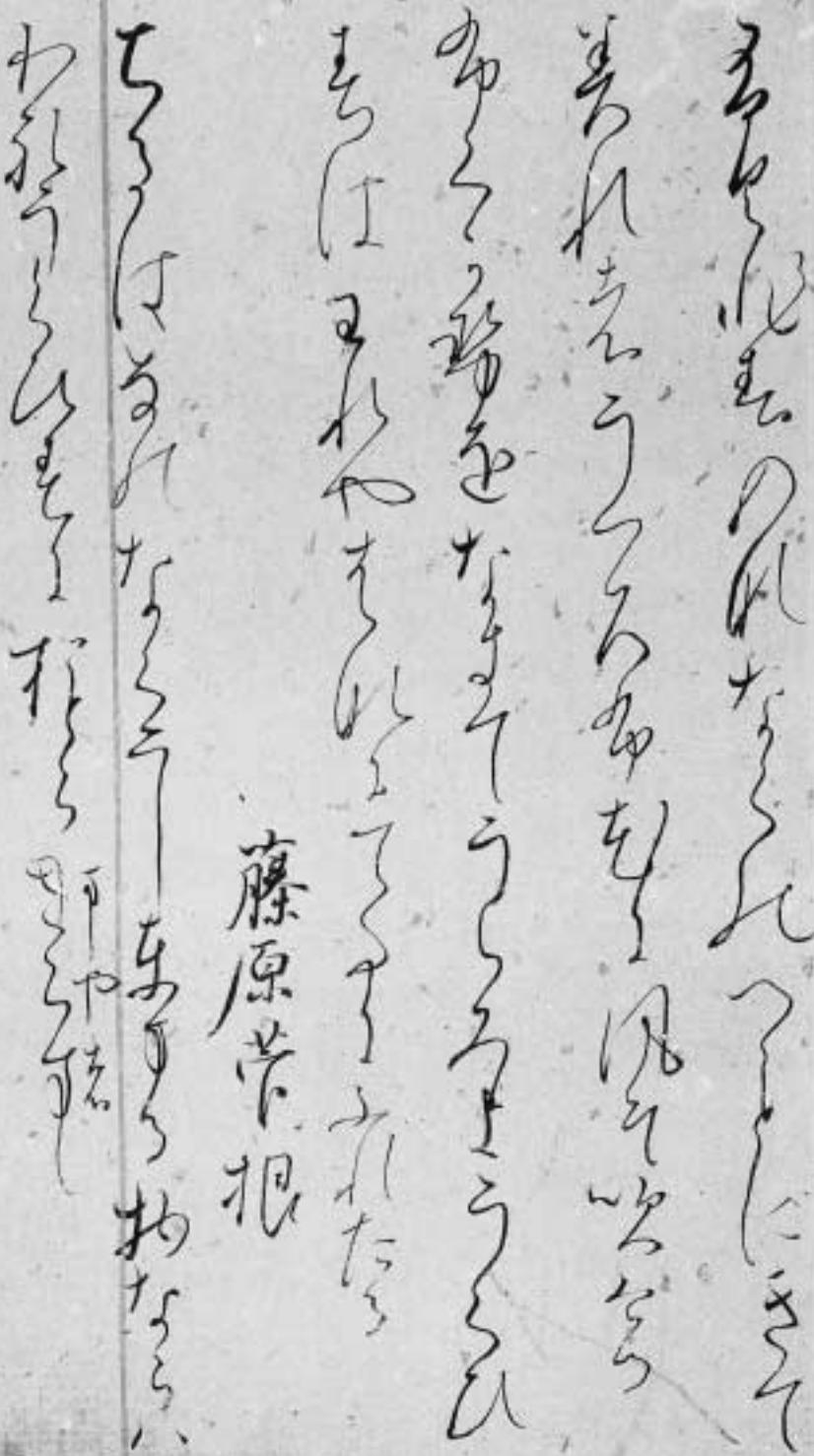
用紙  
・半紙普通判（料紙可）

よみ  
有美非春 那翁字久能  
うぐひすのななくのべごとにきて  
みればうつろふ花に風ぞ吹ける  
ふればうつろふ花に風ぞ吹ける  
は王野かぜをなきてうらみようぐひ  
われや（は）はなにてだるふれたる

ちるはな能久ニ  
われうぐひすにおとらざらまし  
藤原宮根  
（ふじわらのみやね）

〈解説〉「古今和歌集」の断簡で、もとは全二十巻を上・下二冊に書写した粘葉装の冊子。下巻は早くに分割されたが、上巻は昭和27年まで完本として伝来した。文字の形は、自然と縦長になっている。  
(編集部)

（掲載写真縮小90%）  
署名、もしくは〇〇臨  
（押印のみ也可）



習い方解説 (-)

大野祥雲

萬物生光輝  
(萬物光輝を生ず)



「萬」草冠に広がりをもたせ、特に下部は伸びやかに。横画は細めで鋭く、縦画は太くなつたが、余白を美しく。

「物」偏と旁の構成は輝と同じ。ただ、左右の均衡は異なる。払いの方向や長短も大切な要素。

「生」一画目は筆先を利かしてじっくりと。三本の横画は俯仰によるわずかな変化。縦画は直勢で。

「光」この文字は下部の「儿」を主画と考え、そのため上部の四画目までをひかえめに書く。終画は特に強調。

「輝」先の光が変身。相讓相避といふ。偏と旁の大きさ、横画によって生ずる間隔がボイント。

習い方解説 (-)

種谷萬城

天地  
(天地玄黄)



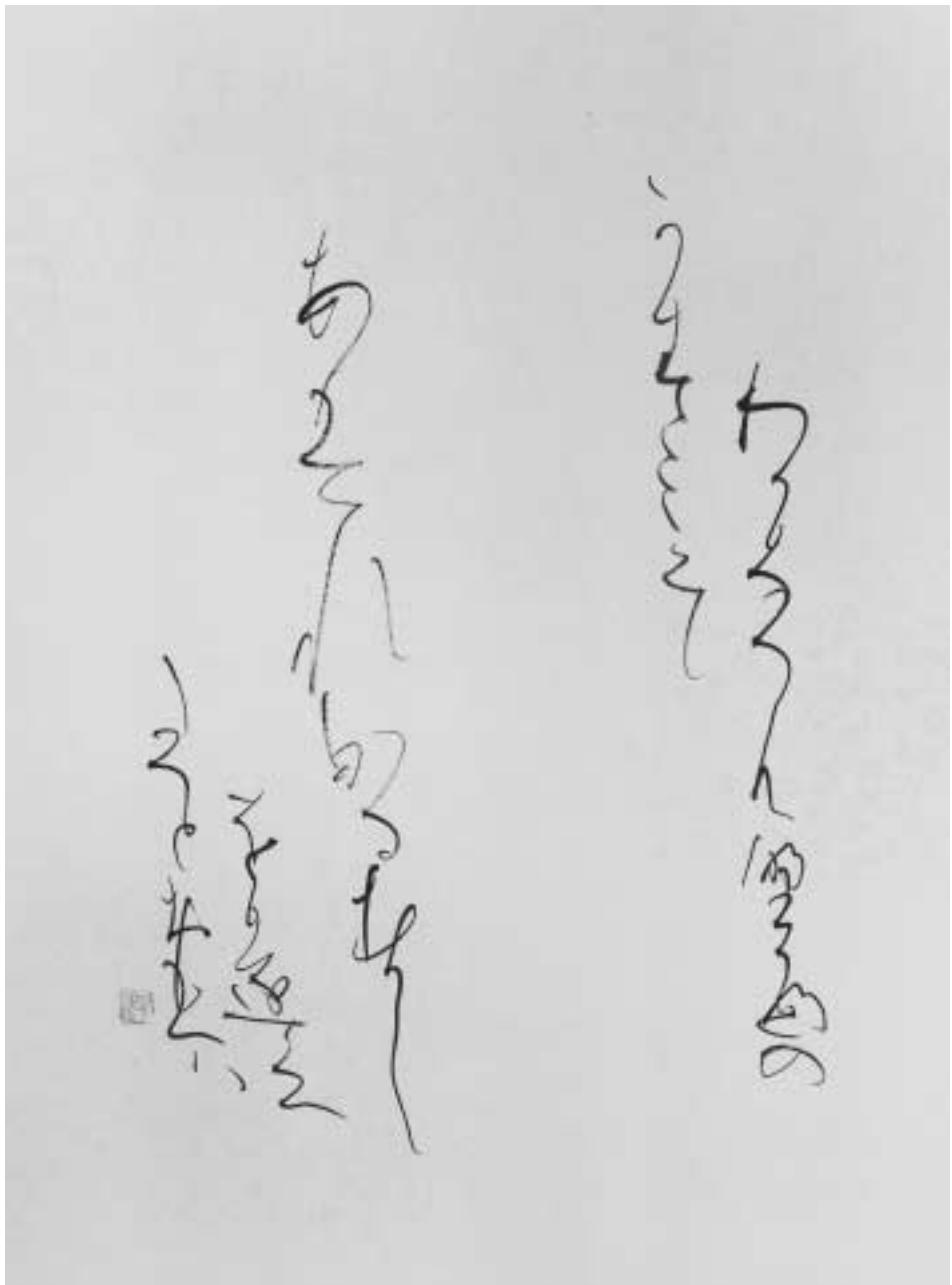
「天地玄黄、宇宙洪荒」で始まる千字文は、中国六朝の梁の周興嗣が、武帝の命により撰した韻文です。一句四字の二五〇句で千字からなる文章です。同じ文字が繰り返して使われていないので、日本のは歌同様、手習い言葉として広く流布しました。

今月は、北魏の鄭道昭の摩崖碑の書風で倣書しました。ゆったりとして、伸びやかで、温かみのある線が魅力的な古典です。書道の学習は、古典の臨書が基本です。臨書は、名筆を手本にして書くことで、名筆からその良さを吸収し、鑑賞力と表現力を磨きます。古典の書風に基づいて書く倣書は、創作の第一歩です。幾多ある魅力溢れる古典の臨書と倣書で、地道に書道の学習をしてください。

習い方解説 (一)

下谷洋子

わかな菜つむ野邊の霞みをあはれ  
なる昔を遠くへだつと思へば  
(山家集)



創作

かなにとって、連綿は作品を創る上で最も大事な表現のポイントになります。同じような連綿の長さや方向、統け方では単調になるばかりです。一行の中で連綿の姿がどう変化しているのか。古筆をよく見てみましょう。もちろん古筆によっても姿が違いますから、その特徴的連綿に気付くところまでいきたいですが…。臨書は大切ですが、活かさなければ本当に学ぶということにはなりません。自分の書いた作品の連綿体と身近にある古筆のそれと、比べてみるとをお勧めします。

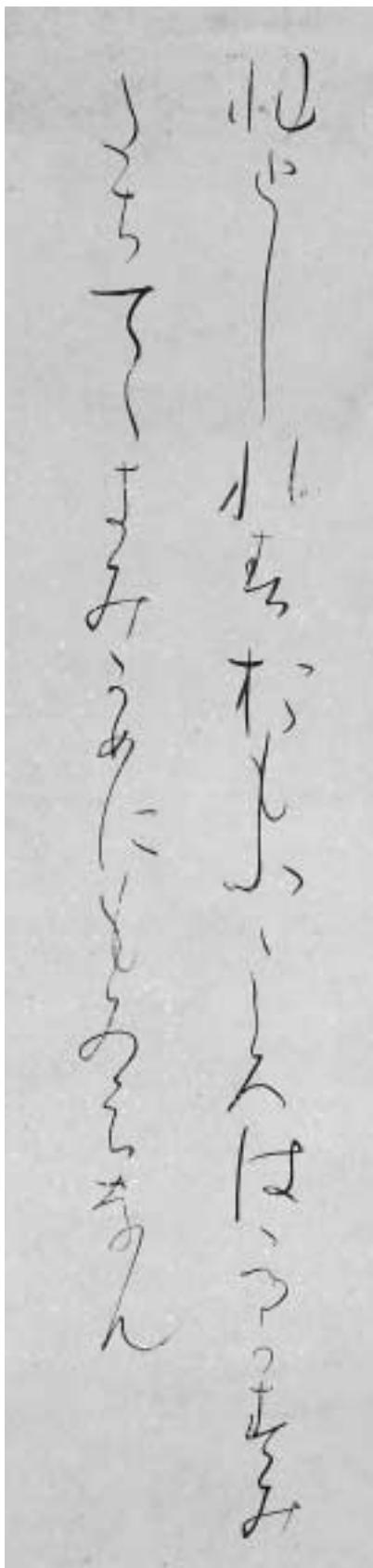
連綿の変化が出せるようになると、作品は一段と深みが増します。

よみ方 わか(可)な(奈)つむ(无)野邊(遍)のか(可)す(春)み(い)ぞ  
あは(盤)れな(那)るむか(可)しを遠く(久)へだ(多)いとおもへば(八)

かな規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 ひ(非)としけず(春)お(於)もうふこゝろはゝるが(可)す(春)みた(多)ちでゝき(支)  
みが(可)めにもみえな(奈)ん(元)

かな条幅規定【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

木村東舟選書

習い方解説 (一)

木村東舟

わが心春の山べにあくがれてな  
がながし日を今日もくらしつ

(新古今和歌集)

春に因んで、気持ちよいどか

さの表れた歌を選んでみました。

制作の際、難しい漢字や変体かな

を避け、書きやすさを求めました。

二行の字形が並び過ぎぬよう融

合させ、バランスを見ながら書い

てください。「春」は変体かなの

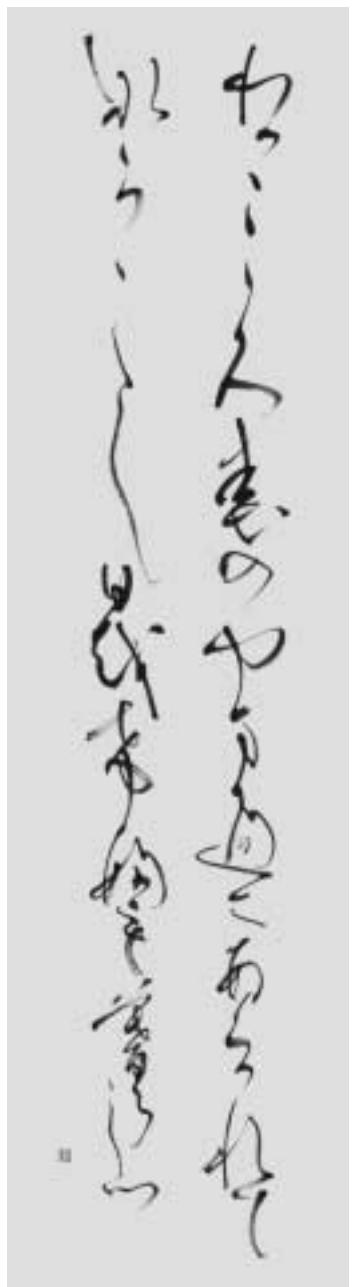
「春」のように書かず、ある程度

しっかりとした点画でまとめましょ

創作

よみ方 わが(可)こゝろ春のやま(万)べ(遍)に(一)あく(久)か(可)れて

な(那)が(可)ぐし日を(越)け(希)ふ(婦)も(毛)暮(ら)し(ア)つ(三)



\*たて形式に限る

漢字 条幅 規定 初段以上 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

村野大仙選書

### 習い方解説 (一)

村野大仙



鶯(鶯)花世界如春夢 煙(煙)雨樓台(臺)似畫(画)圖(圖)

(鶯花世界春夢の如く 煙雨樓台画図に似たり)

書体=自由

私は手本を書くのは嫌いです。  
それを見て書く方のことを考える  
と難しいから…。皆さんの中には  
素敵な作品を書かれる方もおられ  
ますが、どうぞ好きな様に自由に  
お書きください。勿論手本なしで  
すよ。他の方は字形にこだわらず、  
全体を眺めながら○や△を配字よ  
く並べるつもりで書いてください。

漢字 条幅 規定 秀級以下 【五月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

### 習い方解説 (一)

半田藤扇

“鶯は処々に鳴いて春の深きを語  
るようにきこえる。”  
春うららの気分で、ゆったりと  
伸びやかに心落ちつかせて筆を運  
んでみました。

新学期の季節、高校生も条幅へ  
挑戦することと思います。丁寧な  
書法・虞世南のおだやかな線と向  
勢の字形で書いてみましょう。



黄鳥話春深  
(黄鳥春深に話す)

書体=自由

習い方解説 (一)

西林乗宣

山上憶良室 宿よりの能ら

とやの歌へ音情うらはい

まほすらじ子泣くらむ

そのかのぬも喜を待つも

て（万葉集卷三より）

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

本号から6カ月担当させて頂きます。  
前回とは趣をかえ、日本の古典文学の中から人口に膾炙している部分を探り上げてまいります。第1回は

「万葉集」。

仁徳天皇時代から淳仁天皇の天平宝字3年までの450年の間の歌およそ4500首を収録。その表記はすべて漢字でなされ、その音訓あるいは表音、表意文字として使用されている。例を挙げると、「新年之始乃波都波流家布敷流由伎能伊夜之家余其騰」その昔この漢字の羅列から歌一首を解説した学者は偉いと思う。読みは先生に向ってください。少し意地悪ですかな。

練習にあたって

かなの「いろは」単体を専門書で勉強されることをお奨めいたします。そして、これから毎回課題に入る前の筆ならしとしてください。これすなわち本道なり。宴（うたげ）罷（まか）る

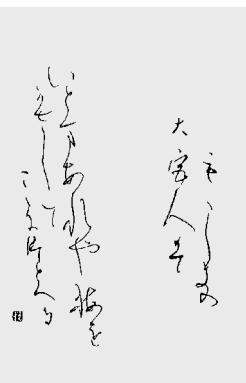
※落款を入れ忘れないようにしてください。（落款は自分の名前を入れてください。）

今月の

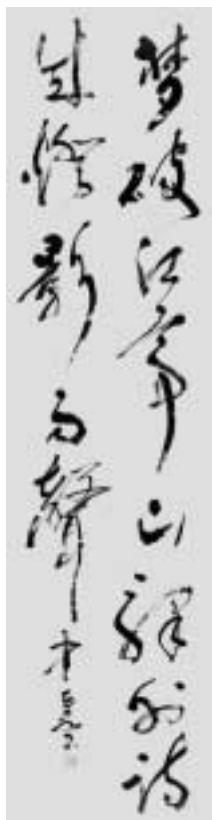
ホープ作品  
各部総評

No. 574

かな部 師範 齋藤 悅子  
各行が呼吸するように動き、自然な躍动感が光彩を放つ。墨がよくひた滑らかな線は深みが漂つ。  
◎かな部総評 部分も大切ですが、全体をよく見渡して書きましょう。上下、左右の余白のバランスを欠いたものが多く残念。（洋子評）



漢字条幅部 師範 阿部 恵景  
爽快な切れ味を感じさせる作。草書を主体とした中に繁画の行書が核となっている。鍊達の作。  
◎漢字条幅部総評 条幅作品の研究は書体の選択が最初である。いつも同じではなく、色々なものに挑戦してほしい。（大雪評）



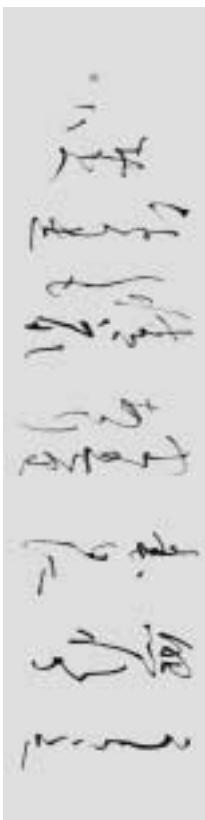
現代詩文書部 特選 市川 柳苑

自作詩でしょうか？字面からは寂しい冬の夜を想像するが、この作は生きとした生活の作品。  
◎現代詩文書部総評 詩文（字句）を通してご自分の想いを大胆に表現を試みてください。（堂光評）



かな条幅部 準師 宮川喜代子  
確かに基礎に裏打ちされた無理のない習作は見応えのある芸術作品となりました。粗密が絶妙です。

◎かな条幅部総評 難解な課題は各自がよく咀嚼して制作することです。用字を確かめて、誤字ならぬ努力を望みます。（明子評）



前衛書部 特選 相澤 紫扇

筆の開きよく線質も躍动感あると共にどっしりとした力強さを感じ濃渴の調和の取れた作品である。  
◎前衛書部総評 濃墨の作品によいものが多くの段々と格調高く躍動感が伝わってきます。（如水評）



◎漢字部 師範 松村 秀扇  
落ちついて運筆し、暖かく豊かな線質で風韻のある隸書作品となつた。完成度の高い作。

◎漢字部総評 古典や参考手本から、考え方や技術の理論を整理して効果的な学書をしよう。反復練習と考えながら書く事。（春洋評）



ペン字部 師範 西村 桂苑  
ペン線清らかで生き生きとし、沈着で確実・安定感あり格調高い表現お見事です。  
◎ペン字部総評 ハガキといえども作品です丁寧で自運が望ましい参考手本をはなれて自己の表現のご研鑽を希望します。（京華評）

ペン線清らかで生き生きとし、沈着で確実・安定感あり格調高い表現お見事です。

# 今月の

## 特別研究品（特選）

現代詩文書

西川藤象

（もくせい）



53×137cm

「時の行方（森山直太朗詩）」

◆おおらかで豊かな雰囲気をかもして明るい。前半よく沈んで味わいがある後の二行は変化のある構成に捉われ過ぎたかも知れない。

（春洋評）

◆筆の流れを自分の一部として使いこなしているので適當なところでかすれが出たり墨だまりが出て面白い。さらに紙をえてみては。

（倫子評）

◆宿墨の味を生かし微妙な味わいを醸し出す。紙がやや固いためか、平板な線となつたのが惜しまれる。柔らかな渴筆が加わればさらに変化も。

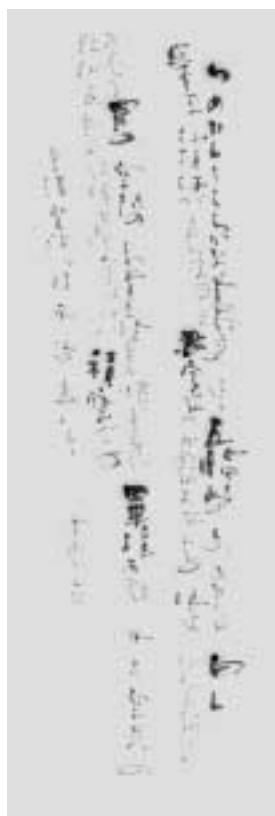
（大雲評）

◆心身一体となつた自由自在な筆の動きが大きな世界を生み出していて楽しい。この先の未知なるものと思わせられる明るい習作です。

（明子評）

（水塗）伊澤香兩

現代詩文書



伊澤香兩書

182×60cm

宮澤賢治「晴天恣意」より

◆口ずさむリズムを墨色の変化で表現されこの長い句をじっくり読ませてくれる。墨色のにじみを違った紙でこころみのもの又違った作品に。

（倫子評）

◆細目の長峰筆の特性を生かして、リズム感溢れる楽しい作である。独特の淡墨のはかなにじみが表情を柔軟なものとして妙味ある作。

（大雲評）

◆墨縫箇所の滲みの淡い色が美しい。中央の行間のとり方がうまく、全体をバランスよく支え、大作なのに無理がなく、詩の心に寄せられます。

（明子評）

◆長文をうまくまとめた力作である。書は線だという。鍛練して出来るものをさらに個人の呼吸で生まれる線や形にすることが大切だと思う。

（春洋評）

## 総評

毎日新春展の席上揮毫では部門の違いを実感した。

書道芸術院は全部門あるが、他の団体となると考え方も用筆法も全然別物である。院の部門の違いが日本県の違いだとすると他の団体は国の違うほどの差がある。日本国内では言葉は通じるが、外国となると言葉も通じない。それだけに初めて見る者にはカルチャーショックであるが、ややもすると自分の考え方方に閉じこもってしまいがちである。すべてがよいわけではないが自分の眼を磨きよいものを取り入れる機の広さも大切である。

今回は80点（漢15、か15、現26、前22、篆2）出品点数は横ばいだが、新しい作家が出てきたことはうれしい。ふるって出品を！

（蒼玄）  
（大雲評）

漢	もく	森田	藤谷	現	大雲	池田	沙静
游翠	前橋	蒼原	大雲	墨宣	松波	小野寺	京芳
水柳	上泉	曾我	大隅	大雲	晃弘		
	荒川	勝山	阿部	阿部	代香		
	加藤	熊谷					
	空華	初美	青山	蓮紅	浅野	彩紅	
	紫翠	昌子	惠泉	蓮紅	一條	紅蕭	
	華	初美	代香	佐藤	鈴木		
				中山	角田		
				希雲	悠香		
				無硯			

（春洋評）



178×58cm

漢字 (華祥) 安藤 華祥

## 「和氣致祥」

◆紙に食い込む強い線とかすれの組み合せに安定感があり群を抜いて目立ちました。引きつられる作品に出合えて目も心も満たされました。

(春洋評)

◆漢字作品の顔法のねばっこさと気力が変った動きの中に生きている。大胆で呼吸の長さと鋭さが学書の広さを伺わせる。まとめ方一工夫を。

(大雲評)

◆2×6尺に大字四文字を大胆に構成する。一本筆の使用が破筆の効果を生み、潤筆部の存在感を際立たせて明快な作となつた。

(明子評)

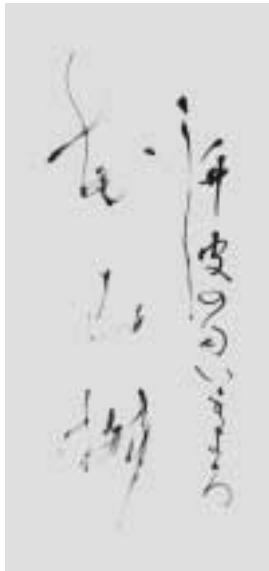
◆思い切りよく活躍している線の流れのように見られるが、空間の処理が適所に表現されていて作品全体を一本に纏めてある力作です。

(倫子評)

かな (卯月)

## 前田 まさ美

「竹皮の匂いもよろし  
花山椒 (西田愛子)」



117×53cm

前田 まさ美 書

◆前半と花山椒は異った筆を使ったのがと思わせられる。独自の世界を確立していく見事な展開です。表現しますがない深さに魅了されます。 (明子評)

(大雲評)

◆じつとり落ちついた一行目に對して新鮮である。書出し部分やや鈍さが感じられる。もっとシャープな切り口でスタートしてみては。 (春洋評)

(倫子評)

前衛書  
(山王)

## 鈴木 春江

## 「旬」



136×70cm

鈴木 春江 書

◆さわやかな心境の表現、余白が主役とすれば、線質の種類によって異った世界を生むことができる。線の力がやはり書の主役ではないか。 (春洋評)

◆淀みない心境で筆を動かして出来た作品一本通つた流れを感じる。欲をいえば墨色に変化を持たせると又違った表現が見られるのでは…。 (倫子評)

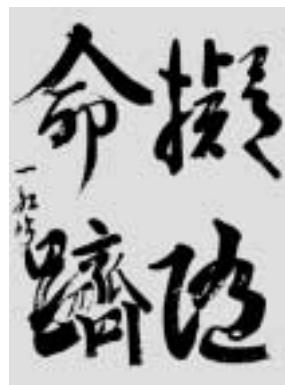
◆大胆な余白の取り方がまず眼に映る作。右側の飛白にリズムを感じられ、鮮明な印象を受ける。左側下部の細線やや中途半端な感あり。 (大雲評)

◆思いがほとばしりながら、表現は軽やかというギャップに語らせるものを深く感じさせられる。控えめであるとの底力と魅力いっぱい。 (明子評)

# 漢字研究部 (風信帖)

選評 西林乘宣

今月のホープ作品



涉谷一紅

**漢字研究部 特選 渋谷 一紅**  
本研究部に寄せられる作品の数を直近三ヵ月で当たったところ、およそ一四〇〇、そのなかの第一等に挙げられたのだから見事というほかはない。墨色の輝き、紙質、布字、用筆、落款と、まさに他の範なり。

の争座位帖とさえいわれている」という一項があります。そこで学書にあたっては出品者が選んだ四字とか六字をただ反覆練習するのではなく、そうやって空海の他の作品についても手掛け、視野を広くもつことをお奨めいたします。もっと言えば、「風信帖」と空海の数ある作品との間を往復し、本物の力をつけてもらいたいということです。



美白聰か谷白  
つ  
千瑛苑子秀麗

真華克千輝麻  
理炎志彩美美

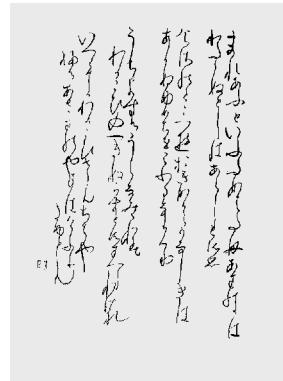
正初香美典彩

直谷紫孝珠

か な 研 究 部  
(石山切)

選評 山 藤 美知子

今月のホープ作品



岩田春燈

定信の若書のものといわれています。清新灑刺、優美ながら霸氣あるこの古筆を大きな運筆でとらへ、線質も美しく見事な秀作です。

かな研究部成績表

坪青戸昌帝佐藤竜紅英艸春 大幕大澄山春A秀千大江前八椿詢坪正江春さ姉玄大も玉大正英己竜藤澄清澄有紅喜竜安高高  
選外 和峰出苑塚倉 泉苑峰玄汀 阪張阪春王寿I水葉阪見橋街翠扇和華見汀つ玄翠阪く葉雲華峰未泉 春雪春秋瑤楽泉波真崎  
194 若吉吉吉横山八森茂村村富三松松松増前堀藤福平比樋春羽橋野根永中中中中中中富戸遠積知田館高高千芹瀬須鈴鉢鈴鉢  
名菜野田田井口重田木山田野嶋本島佐田島村島山田口山成本村岸井村塙島澤井田部山田念中野山野歳澤田田木木木木田  
氏名略 桜 櫻 櫻 櫻 登志 和 加 志 志 志 志 つ